

令和3年度

学校関係者評価報告書

令和4年3月23日

学校法人すみれ学園  
高知福祉専門学校

## 学校関係者評価委員会

1. 開催日時 令和4年3月23日（水）13：56～14：57
2. 開催場所 高知福祉専門学校 演習室
3. 委員

竹村 桂子 （元高等学校教頭）  
土居 沙織 （高知県介護福祉士会会長）  
山本 健太郎 （本校卒業生）  
山中 麻記子 （江陽保育園園長）  
川内 幸代 （在校生保護者） 欠席

## 学校

内田 信弉 （校長）  
内田 力太 （常任理事）  
植田 厚子 （副校長）  
久野 貴裕 （社会福祉学科・こども福祉学科 学科長）  
安井 歩 （介護福祉学科教員）  
濱野 真治 （事務室長）

（参加者計9名・書面参加1名）

## 4. 内容

1. 開会
2. 校長挨拶
3. 出席者商会
4. 自己評価説明
5. 委員による学校関係者評価の発表・意見交換
6. 閉会

### 発言1（書面）

コロナ禍ではあるが、変わらず学びの場を提供し、実習も行えているようで良かった。学生にとっては良い環境であると思う。

貧困により進学をあきらめてしまう学生がいないよう支援ができていることが良い。

卒業生で離職後、復職を希望している人もいるのではないか。その窓口になってもらえると保育士不足解消に繋がると思うのでお願いしたい。

少子化が進む中、大学志向が強まっているとのことで定員の充足は難しいことだと感じるが、伝統のある素晴らしい学校であることをアピールしながら定員確保を目指してほしい。

### 発言2

退学者について、手だての難しさがある。人間関係であったり、本人のメンタル面であったりする。私も高校側として送る側にも問題があるが、学生本人の希望があれば進学意思を曲げるわけにもいかず、入学したが退学に至るケースもある。

学生対応について、担任が窓口になっていると思うが、一人で抱え込まないようにしてほしい。保護者が絡むとその負担はさらに大きい。情報共有することが必要。

先生をつぶさないように管理職の方々は気を配っていただきたい。

### 植田副校長

当校は担任制をとっているが、担任だけがクラスの学生の対応をするのではなく、学生自身が話しやすい教員がいれば、誰でもが対応するし、保護者を含む面談では、必ず複数の教員が面談に入るようにしている。

### 発言3

定員確保は全国規模の問題であると聞く。学校としての特色、強みを県外の学校を含め組織としてアピールしてみてもどうか。就職率、達成率は素晴らしい。

Webを使って卒業生と交流してはどうか。

色々な学生がいるが、卒業をさせるだけではなく、適正を見極めるのも学校の役割だと思う。評価者が常に学校の様子を見たり、学生と意見交換できる機会があればと思う。

### 植田副校長

近年精神的な病気を持っていたり、メンタル面が弱い学生の入学が増えてきている。入学しても教室へ入れなかったり、登校できなくなる学生もいる。一人ひとりに丁寧に寄り添い卒

業まで、サポートしていきたいと考えている。卒業生に話をしていただいたりする機会は今までも設けてきたが、Webを使ったり、意見交換の場はあまりなかったので、積極的に取り入れていきたい。

#### 発言4

コロナ禍で介護の仕方が変わった。そのような介助内容を実習生が見たときにどのように感じるのか、現場としては見せたくないという意見もあるが、今しか見えないこともあるかもしれない。現場からすれば、学生は宝である。学校行事が何も無く寂しいという声もよく聞く。学習以外の面で何か行事を企画してあげてほしい。オンラインで学生に現場の生の声を聞かせるなど卒業生を有効活用するのも手段である。

#### 総括

本年度残された課題としては、大きく2つあると考える。1つ目は定員の確保である。高等学校のみならず中学校への出前授業を取り入れたり、オープンキャンパスなどにももっと卒業生に協力いただいたりして、学校の魅力を発信し定員を確保していきたい。

2つ目は、退学率の問題である。一人ひとりに寄り添った指導をしながら卒業まで導いていきたいと考えるが、その学生の適正も視野に入れていくことも大切にしなければいけないと改めて考えた。